

EXPO 2025 グリーンビジョンと 資源循環勉強会の概要について

大阪・関西万博における持続可能な運営をめざした取組

大阪・関西万博は、ISO20121への適合を視野に入れて、イベント運営における環境影響の管理に加えて、その経済的、社会的影響についても管理することで、イベントの持続可能性をサポートするためのマネジメントシステム(ESMS: Event Sustainability Management System)の導入を検討しています。2022年1月に博覧会協会内に持続可能性部が設置され、今後取組を検討して参ります。

「持続可能性有識者委員会」

※2021年12月設置（委員長：伊藤 元重 これまでに3回開催）

持続可能性の観点から配慮すべき分野などについて、専門的見地から意見及び提案を行うと同時に、持続可能な万博運営に関して議論を行う。



「持続可能な大阪・関西万博開催にむけた方針」の策定 ※2022/4/27公表



上記方針に沿って、必要となるビジョン・ガイドライン等を策定

脱炭素・資源循環に配慮した万博を実現するため、
〈EXPO2025グリーンビジョン〉策定・具体化
※2022/4/27改定版公表

適切な調達を進めるため、
「調達コード」策定・運用

...

改定版＜EXPO 2025 グリーンビジョン＞

2025年大阪・関西万博の脱炭素・資源循環
に関する目指すべき方向性及び対策について

2022年4月27日

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

グリーンビジョンについて

- 2021年1月に設置した、未来社会における環境エネルギー検討委員会にて、検討した結果を2021年6月に中間取りまとめとして「EXPO 2025 グリーンビジョン」公開しました。
- 検討内容は、2020年末に政府が策定した基本方針や当協会が策定した基本計画を踏まえ、万博会場におけるカーボンニュートラルの実現、エネルギーを最適化する技術、水素エネルギー技術の導入等、大阪・関西万博において目指すべき環境エネルギーのあり方やその方向性、具体的な技術分野となります。
- また2022年4月には、「持続可能な大阪・関西万博開催にむけた方針」を策定し、その中でも重要視している脱炭素・資源循環に関して、大阪・関西万博で目指すべき方向性や核となる対策の候補等について、2021年6月に公表したEXPO 2025 グリーンビジョンを改定しました。
- 改定版<EXPO 2025 グリーンビジョン>では、これまで示していたエネルギーに関する対策に加え、会場整備、運営、来場者等の分野における対策の候補や、EXPO 2025 グリーンビジョン具体化タスクフォースでの検討について記載しています。
- さらに、本ビジョンの目指すべき方向性として、「万博におけるカーボンニュートラルの実現及び2050年のカーボンニュートラル社会の提示」のほか、「サーキュラーエコノミーの実現(需要サイドの技術等導入によるごみゼロ、食品廃棄ゼロ、ファッションロスゼロの実現)」を掲げています。

目指すべき方向性(4/27公表 改定版〈EXPO2025グリーンビジョン〉抜粋)

本万博における脱炭素・資源循環関連の取組について、以下を目指すべき方向性とする。

(1) 先進性／経済性のある技術等の導入による、万博におけるカーボンニュートラルの実現及び2050年のカーボンニュートラル社会の提示

(4) 会場内だけでなく会場外も含めた広域エリアを対象とした実証・実装プロジェクトを実施（脱炭素先行地域等の取組との連携）

(2) サーキュラーエコノミーの実現
（需要サイドの技術等導入によるごみゼロ、食品廃棄ゼロ、ファッションロスゼロの実現）

(5) グリーン成長戦略/重点産業分野における需給両面の取り組み推進（グリーンイノベーション基金等の取組との連携）

(3) 来場者等の理解促進を図り、行動変容を起す仕組みの導入

(6) スタートアップ等様々な主体の参加促進

核となる対策の候補(4/27公表 改定版〈EXPO2025グリーンビジョン〉抜粋)

エネルギー

【エネルギーマネジメント・水素エネルギー等】

- エネルギーマネジメントシステム
- 電力貯蔵
- 水素発電/アンモニア発電
- 海外からの水素/アンモニア輸送
- 燃料電池(純水素型燃料電池等)
- 再生可能エネルギー電力からの水素製造
- 水素等を燃料とする次世代モビリティ(FC・EVバス、FC・EV船等)やSAF(Sustainable Aviation Fuel)等の次世代燃料

【CO2回収・利用】

- DAC+CCS
- メタネーション
- カーボンリサイクル技術

【再生可能エネルギー】

- 再生可能エネルギー(次世代型太陽電池発電、風力発電、バイオマス発電、廃棄物発電、帯水層蓄熱、海水冷熱利用 等)

運営

- ごみゼロに資する技術・仕組み(ごみ回収×ナッジの仕組みの導入、食品提供に使用したプラスチックのリサイクル(プラ資源循環見える化)、生分解性容器のリサイクル及びバイオエタノール製造、マイボトル・マイ容器の推進 等)
- 食品廃棄ゼロに資する技術・仕組み(食品の需給予測、食品残渣や下水汚泥等の活用(バイオガス製造、堆肥化等) 等)
- ファッションロスゼロに資する技術・仕組み(ユニフォームのアップサイクル、サステイナブルファッションの推進 等)

会場整備

- 低炭素建材(CO2排出削減・固定量最大化コンクリート、木材等)
- 低炭素工法
- リユース・リサイクルの促進

来場者

- 行動変容を促すナッジの仕組み(会期前から来場者等の脱炭素・環境配慮行動に対して、積極的な動機付けを与えること等により行動変容を促し、CO2削減効果を図る)
- 選択可能なオフセットメニューの提示
- 環境エネルギー技術やカーボンニュートラルに資する技術・仕組みの理解促進を促す展示方法等

その他

- 会場外脱炭素地域でのクレジット等の創出支援

資源循環勉強会について

■設置の目的

- これまでの、グリーンビジョン等の議論を踏まえて、会期期間中の会場内の廃棄物の排出抑制、リサイクルの仕組みの構築、具体化及びレガシーとして何を残せるか、そのための取組について検討を進める。
- これまで博覧会協会では事業者等に対して行ったヒアリングをもとに、2025年に取組可能でありながらも、持続可能性の観点から最先端だと思われることを方向性(案)として提示する。これに関連するヒアリングを有識者、主体的な取組を検討している事業者等も交えて行う。
- こうしたヒアリングを元に、方針(案)を検討する。方針(案)については、調達WGで逐次検討を頂き、その後有識者委員会で議論いただく。今年度中に方針を決定する。また、この方針を出店者募集要領等に反映させる。
- こうした取組を基に、その後に廃棄物の削減、リサイクルについての目標値を別途設定する予定。

■参加メンバー(敬称略)

- 浅利美鈴 (京都大学大学院地球環境学堂准教授)
- 崎田裕子 (ジャーナリスト・環境カウンセラー)
- 原田禎夫 (大阪商業大学公共学部准教授)
- その他会場内及び大阪・関西万博に関連して積極的に資源循環に取り組みたいと考えている方

資源循環勉強会について

■日程

- 第1回:8月9日 方向性(案)の紹介と方向性(案)に関連した事業者に対するヒアリング
- 第2回:9月 方向性(案)に関連した事業者に対するヒアリング②
- 第3回:10月 方向性(案)に基づいた方針(案)の議論

※調達WGにおいても逐次検討いただき、意見聴取を行い、今年度中に完成させる。

また、当該方針を商業ガイドライン・出店者募集要項等に反映させる。

■第2回の勉強会について

- 第2回勉強会では本日の議論を踏まえてヒアリング対象者を公募する(応募者多数の場合は協会にて選考)。
- 公募したヒアリング対象者等からヒアリングを行い、引き続き方向性(案)の検討を行う。